

一人ひとりに
寄り添う政治を。

そ世
だ田
ち谷

つるみけんご

通信
vol.17

世田谷区議会議員

無所属

世田谷から未来を変える。

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる”一人ひとりに寄り添う政治”の実現を目指して「つるみけんご」は、活動を続けます。

つるみけんご 鶴見健悟プロフィール

- 1986年(昭和61年) 10月12日生まれ 35才
- 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科卒
- JA東京中央会 元職員
- 衆議院議員 長妻昭 元秘書
- 公務員試験専門 喜治塾 元講師
- 世田谷区議会議員に初当選(得票数4,491票)



つるみけんごは
“認知症サポーター”です！

企画総務常任委員会、DX推進・公共施設設備等特別委員会に所属

このたび、「つるみけんご通信」をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。

本通信では、令和4年6月に行われた「世田谷区議会令和4年第2回定例会」における一般質問の内容をまとめました。お読みいただけたら、幸いに存じます。

※今回のチラシでは紙面の都合上、定例会で扱ったテーマのすべてを載せることはできませんでした。掲載できなかった内容を含め、議場での質問の様子は、右のQRコードよりご覧いただけます。



世田谷区議会
インターネット
議会中継

つるみけんごの
会議の録画映像を
ご覧いただけます。

質問 区役所の「ワンストップサービス」は実現するのでしょうか

～私たち区民がたらいまわしにならないための窓口改革を～

質問の趣旨

毎年の区民アンケートでも問題視されている「窓口でのたらいまわし」について、つるみけんごは、これまで何度も解決を求め、議会で取り上げてまいりました。

昨年秋の定例会において、世田谷区行政のトップである区長が「ワンストップサービスの実現」を表明されたことで、いよいよ根本的な解決に向けて動き出すものと期待しておりました。しかし、本年5月27日の特別委員会において、担当課長が「今回まちづくりセンターでそれを実現していくということについては、現実的な形ではないだろう」との発言をされました。

区長の表明と職員の方のご認識にはかなりの距離があるようです。このことを捉え、区の「組織としての整合性」が取れていないのではないか、と指摘しました。

そのうえで、改めてDX(デジタル技術を活用した変革)による「ワンストップサービス」と「たらいまわしゼロ」の実現について、区の「基本的方針」を明確にすべき、と提言し、基本的方針と区が目指す「あるべき姿」を明らかにすることを求めました。

区の答弁

場所を選ばずに手続きが可能となることや、相談も含めてより身近な場所におけるワンストップサービスを目指して、たらいまわしのない行政サービスの取り組みを進めていく。



つるみけんごコメント

これまでも区民の方から「たらいまわしにされた」というご相談を何度も耳にしてきました。「たらいまわしゼロ」は、つるみけんごが訴えてきた政策の柱の一つです。今回の答弁を機に、この取り組みが一層進むことを期待します。

最も身近な行政拠点である区内の28か所の「まちづくりセンター」とデジタル技術を用いた「オンライン窓口」が、私たち区民にとっての「区役所」としての機能を発揮し、手続きも相談も、様々な行政サービスの提供も一括して受けることができる、このような窓口が実現し、「区役所がもっと身近に、もっと便利になる」ことを目指して引き続き、提言を続けてまいります。

つるみけんごから2つのお願い



「つるみけんごポスター」のご掲示

つるみけんごのポスターのご掲示にご協力をお願いいたします。ご自宅の壁や駐車場の塀など、ご友人やご親戚の方のお宅でも世田谷区内であればどちらでも伺わせて頂きます。

「つるみけんご通信」のポスティング

つるみけんごの議会報告レポート「つるみけんご通信」のポスティング作業をお願いいたします。ご自宅の周辺のお宅のポストに投函して頂く作業です。時間・部数などの指定はございません。少しの部数でもご協力いただけましたら幸いです。

以上、2点何卒ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。 お電話:03-6322-0575 メール:kengo@k-tsurumi.net

質問 すべての子ども達の「好奇心」を育むためにどのように取り組むのでしょうか

～世田谷のすべての子ども達の好奇心を育むための創意工夫を～

質問の趣旨

世田谷区若林に開設された教育総合センターで毎週土曜日に開催されているSTEAM教育(注1)講座は非常に人気があります。特に人気のプログラミング関連の講座は、2月は定員24名に対し30倍、3月は同じく定員24名に対し36倍のお申し込みがありました。人気があること自体は良いことではありますが、前述のプログラミング関連講座でいえば、希望した子どものうち9割以上は参加できませんでした。



子ども達の興味や好奇心を育むための講座が結果として、ごく一部の子ども達しか体験できない限定的なものとなってしまっていることを捉え、税金を用いた事業である以上、公平性の観点からもより広く、多くの子ども達にSTEAM教育の効果が行きわたる創意工夫が必要であると指摘しました。

世田谷のすべての子ども達にSTEAM教育の取り組みとその効果が還元されるために、今後、どのような取り組みを想定しているのか、教育委員会の考えと具体的取組について問いました。

(注1) 科学、技術、工学、芸術、数学の知識や考え方を総合的に活用して、問題解決や新しいものを創造する力をはぐくむ学習手法

教育委員会の答弁

より多くの子ども達に体験して頂くために学校の長期休業期間中の開館日には毎日講座を開催する。今後は、地域や大学と連携した学校への出前授業を実施するなど、様々な可能性を検討し、楽しく夢を持って学べるような教育の機会を提供していく。



つるみけんごコメント

昨年、ノーベル物理学賞を受賞された眞鍋淑郎さんは、「私の原動力のすべては好奇心だった」と言われました。子ども達の「好奇心」には、無限の可能性があります。

講座の増設は予算や場所の観点から考えれば根本的な問題の解決にはなり得ません。大切なことは、この講座で得られた子ども達の「気づき」が教育現場などで共有され、活かされること、STEAM教育講座で実現すべき理念が世田谷の教育現場の隅々にまで浸透していくことで世田谷のすべての子ども達の好奇心が育まれる環境が街全体で作られること、子ども達が様々な場でその機会に巡り合えることです。

今後も子ども達一人ひとりの可能性を拡げ、伸ばすことのできる教育の実現に全力で取り組んでまいります。

質問 高齢者の「くつろげる居場所」は一体どこにあるのでしょうか

「くつろげる居場所問題」の解決に向けた高齢者政策の全体像を～

質問の趣旨

令和2年度末に廃止された高齢者休養施設の「ふじみ荘」は、当時、多くの方から廃止を惜しむ声を頂きました。結局、利用者の方々が求めるような代替施設案が区から示されることはなく、今なお私のところにはかつてのふじみ荘利用者の方々から様々なご意見が届いております。

現在、区は「高齢者のくつろげる居場所づくり」として、千歳温水プールの健康運動室等の既存施設を活用して高齢者がくつろげる居場所を創設しようとしています。一方で、前述の廃止されたふじみ荘の跡地活用の方針で示された、複合型の新施設における高齢者の方々ための「地域交流スペース」はたったの60㎡、学校の普通教室1個分です。(ちなみにふじみ荘の敷地面積は3,261㎡でした。)

ふじみ荘廃止問題に端を発した「高齢者のくつろげる居場所問題」に対する区の対応は、「できるところで作る」「できることをやる」といった場当たりの対応になっているとしか思えません。高齢者の居場所について、区が描く「あるべき姿」と、その全体像がまるで見えてこないことが問題です。

区として、身近な地区、少し広い意味での地域、区内全域で捉えた全区的な施設・機能の整備として、区のあるべき姿をどのように描いているのか、そこに向けてどのように取り組むのか、問いました。



区の答弁

居場所が、高齢者の多様な暮らしや活動、加齢による身体機能の低下などを踏まえ、気軽に訪れ、寛げ、話の出来る憩いの場として、地域包括の地区展開を踏まえながら、将来的には各地区単位に整備を図っていくことを目標としている。



つるみけんごコメント

まさにこの答弁こそが、「場当たりの対応」の根本原因ではないかと考えます。世田谷区では「地区」というと、まちづくりセンターの管内28地区のことを指していますが、すべての地区にかつてのふじみ荘的施設機能を整備することは現実的ではありません。「ふじみ荘」には、浴室機能・宿泊機能・食堂・大広間・カラオケ施設・マッサージチェア・囲碁・将棋スペースなどの多くの機能が含まれていました。だからこそ、地区には何が必要で、地域・全区ではどういう施設・機能が必要か、そのことを整理して区の高齢者政策の「あるべき姿」を描くべきです。

今回の答弁を機に、改めて世田谷区の高齢者政策を組み立て直していきたいと考えます。ぜひ、皆様のご意見もつるみけんごにお聞かせください。



学生インターン & 政治を志す若者募集中

私が初めて政治に携わったのは社会人2年目、サラリーマンをしながら休日にボランティアで政治家の方の活動をお手伝いさせて頂いた時でした。その後、転職し、衆議院議員ながつま昭さんの秘書として、政治の現場で様々な事を学ばせて頂きました。私はまだ区議会議員1年生ですが、ぜひとも若い世代の方々へ政治を肌で感じてもらいたい、これからの政治のあるべき姿をともに描いていきたい、と考えております。政治にご関心のある方のご連絡をお待ちしています。ともに「政治のあるべき姿」・「地域のあるべき姿」を考えていきましょう。

